NIE特集

Newspaper In Education

毎月第2・4火曜日発行

どきどき小学生新聞

塩釜二小

学校名　塩釜市立第二小学校　　校長　佐藤　潤
所在地　塩釜市小松崎10の1　　児童　679人
電話　022(362)2221

夢かなえた先輩 誇り

宮城のエース・木村投手に迫る！

甲子園 全員野球貫く

木村投手（中央）を囲んで＝塩釜二小

知り隊

私たち塩釜二小の先輩には、今年の夏、甲子園で活躍した仙台育英高校野球部のエース・木村謙吾さん（2005年卒業）がいます。謙吾さんは投手として力強いピッチングでチームを引っ張っていきました。そんな姿を見て、私たちは謙吾さんのことをもっと知りたいと思い、先輩に直撃インタビューしました。

最初に野球部のことについてお聞きしました。「自分たちで練習メニューを計画し、毎日取り組んでいる」と言います。チームの中にはグラウンドマネジャーやデータ班、給水係などがいるそうです。謙吾さんの話を聞いて、ベンチにいる選手ばかりではなく、たくさんの人がチーム全体を支えていることが分かりました。

そして、あの猛暑の夏、甲子園で何を思い、何を感じたのかお聞きしました。

『甲子園では、1回戦と2回戦とも自分の野球ができず悔しい思いをしたけれど、野球部員、103人全員で甲子園に行くことができて嬉しい』

謙吾さんにとって甲子園とは、最悪で最高の場所となったそうです。

次に、謙吾さんのプライベートについても聞いてみました。野球の練習や試合がない日は、友人とカラオケやボウリングを楽しんでいるそうです。好きな食べ物はチーズバーガーです。お小遣いのほとんどは食べ物に消えてしまうそうです。

謙吾さんの将来の夢は、ずばりプロ野球選手。野球ができれば、どこの球団でも行きたいそうです。目標とする選手は、育英の先輩でプロ野球に入団した橋本到さん（巨人）。打つことも投げることもできる選手ということです。謙吾さんが、将来プロで活躍されるのを、私たちは楽しみにしています。

最後に後輩に向けて、これから大人になるにつれて、たいへんなことがたくさんあるけれど、夢をあきらめずに乗り越えてくださいとエールを送りました。私たちも先輩を見習い、夢に向かって頑張りたいと思います。

文・千葉のどか、石川友唯、草刈恒那、高橋早紀、相馬佳奈子（6年）

※（このインタビューは8月25日に行われました。10月28日、プロ野球ドラフト会議が行われ、木村投手は東北楽天ゴールデンイーグルスに育成枠で指名されました）

うきうきキャンバス

カモメにかまれたところ
2年・小沢綾

うんていで　あそんだよ
3年・今野盛来

うちゅうりょこうへ　ひとっとび
1年・早坂浩成

カボチャは丸い
6年・西条天晴

おいしくできました
6年・小椋百華

いつも見ている風景
…わたしの学校
5年・中津川晴香

百万年に一度さく花
4年・石川諒

教え隊

「よしこの塩釜」踊り

二小の「よしこの塩釜」踊り（7月）

創作パレード 市長賞

塩釜では毎年7月、「塩釜みなと祭り」が開かれ、各小中学校は「よしこの塩釜」の踊りを創作してパレードに出場します。二小では、5年生で踊りを考え練習します。6年生になると、踊りにみがきをかけ昼休み時間には低学年に踊りを教えます。

今年の夏もみんな気合は十分。そのかいあって、昨年に引き続き小学校部門で最高の「市長賞」を頂きました。とてもうれしかったです。これからも二小の「よしこの塩釜」の伝統を大切にしていきたいと思います。

文・佐藤舞花、児玉樹音（6年）

言い隊

■ 人間と動物の共存を ■

私は、動物たちの暮らす森がだんだん減ってきていると思います。なぜなら、8月の終わりごろに静岡県で凶暴なサルが現れニュースになりました。森がだんだんなくなってきて、食べる木の実なども減り、いつもおなかがすいているため、町の方へ下りてきたのではないかと思いました。さらには、おばあさんにサルがかみつきました。私は、もっと森を傷つけたら大群で襲うという、人間に対する警告ではないかと考えました。

今、私たちにできる解決策は、森を大切にし、木をどんどん植えていくことだと思います。人間と動物が共存できる世の中になってほしいと思います。

（6年・丹野えみり）

■ 携帯の使用は注意を ■

ある電車の中での出来事です。「優先席はお年寄りや妊娠中の方など京座る席ですのでご理解・協力をお願いします」という放送が流れました。でも、席をゆずらず携帯電話に夢中になっている人がいました。ぼくは、大人として、恥ずかしいなあ、と思いました。

次は、通勤バスの中でのことです。足を組んで携帯電話をいじりながら大音量で曲を聞いている人がいました。バスの運転手さんが注意しても、全く聞こうとしないのです。なぜ、注意を聞かないのかな、とぼくは思いました。

公共のマナーや社会のルールを、もう一度みんなで学び直して住みよい社会にしたいと思います。

（6年・若生豊）

編集後記

今回、木村謙吾さんに初めて会いました。笑顔を絶やさず、やさしい人だなと思いました。野球の練習後、私たちの取材のためにかけつけてくれました。練習の疲れもみせずに、ていねいに質問に答えてくれました。

私たちの学校には、野球のスポーツ少年団が多いです。謙吾さんも、このチームに所属していました。スポーツ少年団の後輩たちも、甲子園を目指して、日々練習にはげんでいます。

取材の最後に、謙吾さんと腕相撲をしました。手がグローブのように大きく、小学生2人がかりでも勝てませんでした。夢を追う人の手は、とても力強かったです。

〈編集委員〉児玉樹音、佐藤舞花、千葉のどか、石川友唯、草刈恒那、高橋早紀、相馬佳奈子、丹野えみり、若生豊（6年）

題字デザイン　高橋日菜乃（6年）

〈指導教員〉佐藤菊江、大場武篤、上野清悦、渡辺久子、堀籠裕子

次回（23日）は、愛島小（名取市）と高砂小（仙台市）です。